

2019 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020 年 4 月 3 日
研究・研修課題名	日本医療薬学会 認定(指導)薬剤師の認定取得・更新のための研修
研究・研修組織名(所属)	島根大学医学部附属病院・薬剤部
研究・研修責任者名(所属)	川端 奈緒美(薬剤部)
研究・研修実施者名(所属)	川端 奈緒美、三浦 佳江(薬剤部)

成果区分	<input checked="" type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	三浦 佳江(薬剤部)
学会名(会期・場所)、認定名等	第 29 回日本医療薬学会年会(2019 年 11 月 2 日～4 日、福岡市)
演題名・認証交付元等	心不全チームにおける薬剤師の活動内容と薬学的管理の評価
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input checked="" type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	川端 奈緒美(薬剤部)
学会名(会期・場所)、認定名等	学会名：第 29 回日本医療薬学会年会(2019 年 11 月 2 日～4 日、福岡市) 認定名：医療薬学専門薬剤師、医療薬学指導薬剤師
演題名・認証交付元等	認証交付元：日本医療薬学会
取得日・認定期間等	2020. 1. 1 ～ 2024. 12. 31
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

①目的

チーム医療の中で、薬剤師は薬物療法に関するスペシャリストとしての役割を担うことが期待されている。

日本医療薬学会認定(指導)薬剤師は、薬の専門家として高度化する医療の中で良質かつ安全な薬物療法を提供することを目的として、医療薬学分野における実務経験に基づいた知識・技能、さらに学術活動・研究活動の実績を有する薬剤師を「認定(指導)薬剤師」として認定する制度であり、資格更新には日本医療薬学会が主催する学会参加による単位取得が必須となっている。

そこで、第 29 回日本医療薬学会年会(以下、本学会)に参加し、最新の情報を入手し、知識の向上をはかるとともに、認定更新に必要な単位を取得し、日本医療薬学会認定(指導)薬剤師の資格を更新することを目的とする。

②方法

認定(指導)薬剤師の資格更新における必須項目の 1 つである本学会に参加・発表し、更新に必要な単位を取得するとともに学会参加で得た最新の情報を他の薬剤師へ伝達する。

③成果

2019年11月2日～4日に開催された本学会に参加し、「心不全チームにおける薬剤師の活動内容と薬学的管理の評価」について発表した。さらに、シンポジウム、メディカルセミナー、ポスター・口頭発表を聴講し、他施設の状況も含めた最新情報を入手した。

以下に、業務の参考となる内容を要約して記載する。

ポスター発表：経カテーテル大動脈弁置換術施行後に Apixaban を使用した 2 症例

当院でも 2018 年より TAVI 実施施設となり、TAVI 後の抗凝固・抗血小板薬の使用方法について薬剤指導をおこなっている。TAVI 導入以前の説明会では、術後は DAPT (抗血小板薬 2 剤) でいくと説明を受けていたが、実際に TAVI が始まると DAPT・SAPT (抗血小板薬 1 剤)・ワーファリン・DOAC・シロスタゾールなど様々でありそのたびに各薬剤の薬剤指導を行っている。このポスター発表の施設では DAPT が基本でこの 2 例だけがエリキュースを使用した珍しい症例であったとのこと。DOAC の中でエリキュースを選択した理由としては、リクシアナ、イグザレルトに比べ出血リスクが少ないという外国の報告があるためとのことであった。当院の状況もお話し、まだまだエビデンスが少ない TAVI という治療の難しさを共有した。

シンポジウム：臨床研究に取り組むための研究倫理のポイントと注意点

近年、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の医学系研究に関する倫理指針の改正、「臨床研究法および同施行規則」の施行と、臨床研究を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、常に最新の規範に従うことが倫理的な研究をおこなう第一歩であるとして、実際に臨床研究をおこなう際の留意点について講演された。

まず、当然のことではあるが、診療と研究は分けて考える必要がある。診療は「目の前の患者さんの治療」、研究は「将来の患者さんのため」を目指すことであり、研究は「研究参加による患者さん本人への利益享受はない」ことに留意しなくてはならない。そこで、「将来の患者さんのため」に行われる臨床研究に参加した患者さんが不利益を受けないように最大限の配慮が必要、つまり被験者保護、即ち規制を遵守することが重要であるとのことであった。

治験も同様であるが、研究倫理の本質は被験者保護であり、最新の法・指針を理解し遵守して研究を実施することが、倫理的な臨床研究実施の第一歩であることを改めて確認した。

その他、本学会で得た最新の情報を他の薬剤師へ報告することで、薬剤師全体の資質向上に寄与できたと考える。

また、本学会は、「日本医療薬学会認定(指導)薬剤師」の認定更新(5年毎)の単位取得(必須)の1つとなっているが、今年度1名が「医療薬学専門薬剤師」「医療薬学指導薬剤師」の認定を更新することができた。

(2020年1月より、「日本医療薬学会認定(指導)薬剤師」→「医療薬学専門薬剤師」「医療薬学指導薬剤師」)